

「国語」（１学年）指導略案

単元・題材名	国語 白いぼうし②	生徒	グループ３ １年生（８名）
		場所	農業科１年Ａ組
日時	平成２８年 １０月 ３１日（月） ３校時	指導者	成田 直浩
単元の全体目標	- 文章の内容と登場人物の心情を読みとることができる。 - グループ活動を通して、友達と協力し、自分の役割を果たすことができる。		
本時の目標	- 文章の内容を理解することができる。 - 自分の役割を理解し、友達と協力しながらグループ活動に取り組むことができる。		

過程時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 ５分	挨拶	○挨拶をする。	○挨拶をする生徒を指名する。	
	前時の確認	○前時の学習内容（白いぼうし①）について確認する。	○登場人物や文章内容の振り返りをする。	
	本時の確認	○前時の続きの学習プリント（白いぼうし②）に取り組むことを確認する。	○白いぼうし②のプリントに取り組むことを確認する。	提示カード
	本時の目標の確認	○本時の目標を確認する。	○本時の目標を提示する。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ - ワークシートの課題を全員で空欄を埋めるように伝える。(①) - 課題を解決するために、教え合ったり助け合ったりしていいことを伝える。(②) - 各ペアで、答えをホワイトボードに書く係と発表係を決めるように伝える。(③)	提示カード
展開 ３５分	文章の読解	○学習プリントの文章を一人一文ずつ読む。	○友達に聞こえるように、はっきりと大きな声で読むことを伝える。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ 文章を読むときは、仲間に聞こえやすい声とスピードで読むように伝える。(④)	プリント（白いぼうし②）
		○学習プリントの問題に取り組む。 ○一問解くごとに、ペアで話し合って一つの答えを導き出す。	○一問ずつ解くことを伝える。 ○ペアで話し合い、一つの答えをホワイトボード書くように伝える。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ - ペアで互いの答えを議論し合いながら、一つの答えを導き出すように伝える。(②) - ホワイトボードに答えを書く係と発表する係が、互いに責任感をもって取り組むように伝える。(③) - 活動する際に、分からないことは友達に相談し、それでも解決しない場合は教師に聞くように伝える。(④)	ホワイトボード（４枚） ホワイトボードマーカー（４本）

		○答えを発表する。 ○答え合わせをする。	○ペアごとに答えを発表するように伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・発表するときは、仲間に聞こえやすい声とスピードで読むように伝える。(④) ○全てのペアが答えを発表した後、正答を伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・答え合わせのときは、赤ペンだけを持ち、間違った場合は赤ペンで訂正するように伝える。(配慮☆)	
整理 5分	まとめ・振り返り 次時の確認 挨拶	○授業者の話を聞く。 ○次時の内容を確認する。 ○挨拶をする。	○本時の学習の取り組みについてコメントする。 <協同学習の要素や配慮事項> ・メンバー全員が達成感を感じられるように褒め方を工夫する。(配慮④) ○次時の授業内容を説明する。 ○挨拶をする生徒を指名する。	

(凡例)「前時の復習…」～授業の流れの骨子、 「○互いに教え合う…」～協同学習に関わる教師の活動

※ (①) … 互恵的な相互依存関係 、 (②) … 対面的なやり取り 、 (③) … 個人としての責任
 (④) … 協同学習スキル (⑤) … チームの振り返り

※ (配慮①～⑱) … 配慮事項については、マニュアルP 8～10参照。

※ (配慮☆) … オリジナルの配慮事項。

授業参観者アンケート

授業者：成田 直浩
協同学習（各要素）についての評価
①互恵的な相互依存関係 ・個人で答えを書いてから、ペアで1つの答えを導き出すという流れが良かったです。 ・国語の読解ということで、個人で考えさせた後にペアで確認をし合うことで、要素を盛り込むことができていたと思います。 ・全体で一つの要素を作り上げる観点は少ないですが、教え合う形で相互依存の関係が生まれていたと感じました
②対面的なやりとり ・個人で答えを書いてから、ペアで1つの答えを導き出すという流れが良かったです。 ・隣同士で答え合わせをすることで、必ず自分の考えを発言する場面を設けることができていました。 ・2人ペアになり、話し合ってホワイトボードに解答を書いていました。（発表と書く人に分かれていた。） ・小さい声で相談することも必要な場合もありましたが、机をペアで離して、十分に相手に聞こえる声で相談し合えた方が、活動がより活気づいたと思いました。
③個人としての責任 ・個人で答えを考えてプリントに記入することで、個人の責任は十分に果たすことができていました。 ・ペアでの話し合いでは、ホワイトボードに書く人、発表する人を決めることで、係が明確になり個人の責任をもって取り組めたので良かったと思います。
④協同学習スキル ・生徒がホワイトボードに書いた文字の大きさが小さく、見づらい部分がありました。発表に使うのであれば「相手に見やすい字の大きさ」を意識されるといいと思います。 ・答えを教え合う際に、周りの迷惑にならないように小さい声で相談することという社会的スキルを指導することができていました。 ・自分のことだけではなく、周囲を意識した発表の仕方についても触れていたため、生徒がはっきり答えることができていました。また、継続的に活動を行っている様子を見ることができました。 ・小さい声で相談することも必要な場合もありましたが、机をペアで離して、十分に相手に聞こえるで相談し合えた方が、活動がより活気づいたと思いました。 ・ペアの際、話かけている人が同じ人や、なんとなく自分の答えをすぐにあきらめ、他人に譲ってしまうような様子も見られたので、お互いになぜその答えにたどり着いたのかも話し合いで出てくるとより深まるのではないかと思います。 ・国語の授業では、他の授業以上に協同学習スキルが複数使用されるはずですが、本時案には3つのスキルが記されていました。一見、多いように見えますが、授業展開に沿って考えると、次のような協同学習スキルを使う（指導する）場面を今後設けることができます。 「知っていることや調べたことを基に、結果を予想することができる。（推論する）」 「自分なりの見方で、何かについて考えることができる。（着目する）」 「一つのもの（こと）をさまざまな視点から考えることができる。（多面的にみる）」 「自分なりの見方で、観察することができる。（観察する）」

「二つのもの（こと）の同じところや違うところを比べることができる。（比較する）」

「条件に応じて、いろいろ試したり考えたりすることができる。（変える）」

「色々な方法で、答えを確かめようとすることができる。（確かめる）」

「表現や内容について、意見や感想をもつことができる。（評価する）」

- ・協同学習の要素の④については、考えるスキル、集団活動スキル・コミュニケーションスキル、教科固有のスキルを鍛えていくことが大切であると思います。

⑤チームの振り返り

- ・全体でホワイトボードを見せ合って答えを確認することで、自分達の解答に対しての振り返りを行うことができていました。

協同学習全体を通して

- ・ペアでの話し合いですが、段階を踏みながら複数人でも同様に行えると思いました。そうすることによって、自主性なども育ってくるのではないかと思います。
- ・既に答えがある題材に対して答え合わせをペアで行っていたため、協同学習としては言語活動の盛り上がりやや少ないと感じました。ペアで問題に取り組むことや、時間を決めて問題に取り組み、分からない部分があった人が分かる人が教えてあげる取り組み方のほうが、言語活動としては充実したように感じました。
- ・学習指導案に「協同学習の要素や配慮事項」が明記されていて、どのようなことに留意して授業を展開しようとしているのかが分かりやすく、良かったです。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点など）

- ・登場人物を聞いたとき、全員に丸を付けさせてから発表させたら、もっと手が挙がると思います。
- ・話すスピードがゆっくりなので、とても聞きやすく、指示が分かりやすかったです。
- ・最後まで、ホワイトボードを出すときの「ドンッ」を言わせても良かったかなと思います。恥ずかしそうでしたが、流れができたなら雰囲気が明るくなるような気がしました。
- ・クイズ風に授業が進んでいて、集中が切れないと思いました。自分の授業にも取り入れたいと思います。
- ・学習プリントを使った学習は、授業の構造があらかじめしっかりとなる点で効果的です。展開もパターン化されて生徒は学びやすい授業形態です。しかし、授業者の主体的な発問や個別発問、巡視、生徒が考える手がかりの提供がもっとある方がよい授業になります。授業の山場を作る発問やプリントの構成を工夫していくとよいと思います。
- ・ペアでの話し合いの場合には、話し合い方の指導が必要です。クイズ的なやり取りになっています。むしろ、自分の考えを言うときにその理由を言うように仕向ける必要があります。例えば、「もんしろちょう」と答える場面で、なぜもんしろちょうなのかについて生徒が発表する設定をした方がよいです。
- ・「そんな」の回答の場面では、説明が必要です。
- ・「周りに答えが隠されている。」という投げかけがありましたが、読解に当たっての着眼点を指導することがあった方がよいと思います。
- ・授業の前半しか参観できなかったのですが、授業の雰囲気が良く、生徒達が発言しやすい様子が見られました。
- ・ホワイトボードに記入することで、互いの考えた解答が分かりやすく掲示できていたと感じました。

【全員授業研究 振り返りレポート】

- ① 協同学習の要素を取り入れた授業についての感想。
- ② 授業全般を通して、良かったところ、改善すべきところ。

単元・題材名	国語「白いぼうし②」	生徒	1年生徒8名
		場所	農業科1年A組教室
日時	平成28年10月31日（月）3校時	授業者	成田 直浩
導入時に、ワークシートの課題を全員で協力しながら空欄を埋めるように指示したことで、生徒間で①「互恵的な相互依存関係」が出来上がったと感じた。また、本時の学習テーマや目標を確認する際に、提示カードを黒板に掲示することで、目的意識をもたせるとともに板書時間の短縮につなげることができた。 展開では、読解プリントを一問ずつ自分で解き、ペアになってそれぞれの答えを議論し合いながら一つの答えを導き出す活動を取り入れた。この活動（②「対面的なやりとり」）を取り入れたことにより、必ず自分の答えを発言する場面を設けることができた。そして、ペアの中で導き出した答えをホワイトボードに書く係、発表する係を決め、互いに責任感をもって取り組めるようにした。（③「個人としての責任」）また、ペアの中で答えを教え合う際に、周りの迷惑にならないように小さい声で相談すること（④「協同学習スキル」）を指導した。⑤「チームの振り返り」については、全体でホワイトボードを見せ合って答えを確認することで、生徒たちの解答に対しての振り返りを行うことができた。 今回の授業を通しての感想は、生徒たちの集中が切れないようにクイズ番組形式にしてみたが、細かな部分での配慮に欠けた。ペア活動の際に、話しかける生徒が同じであったり、自分の答えをすぐにあきらめてペアの生徒に譲ってしまったりする様子が見られた。お互いになぜその答えにたどり着いたのかということも話し合うように指導することで、より活動が深まるのではないかと感じた。また、ペア内での役割を固定せずに、一問ずつ交代制にして経験の幅を広げるように工夫するべきであった。良かったところは、クイズ番組形式で行ったことで、生徒が集中を切らすことなく参加することができたことである。 協同学習を行うことで、生徒たち一人ひとりの責任感、友だち同士で教え合うことによる知識・技能、社会的スキルの向上が期待できることを改めて感じた。これらの力は、生徒たちの将来においてより必要とされると考えるため、今後の授業においても実践を積み重ねていきたい。			

「国語」産業科2学年指導略案

単元・題材名	学校祭の作文	生徒	産業科2学年（実習のため3名欠席）
		場所	産業科2学年教室
日時	平成28年11月30日（水）1校時	指導者	亀田 倫代
単元の全体目標	読み手に伝わりやすい文章を書くことができる。		
本時の目標	・自分の考えを分かりやすく相手に伝えることができる。		

過程時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 15分	始業の挨拶	○日直の号令で挨拶をする。	○本時の活動内容を説明する。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・話を聞いて、分からないことや確かめたいことを質問することができる。(④) ・集団行動のルールを守ることができる。(④) (配慮⑬)	P P
	本時の確認	○本時の活動内容を確認する。 ・ルールの確認をする		
	グループ活動1	○事前に作成した道案内文を基に実際に目的地に行く。		
展開 20分	案内文の内容について考える	○相手の道案内文の分かりやすかった点と、分かりづらかった点をワークシート①に記入する。 ○他のグループを見て、気付いた点を発表する。	○本時の目的の説明をする。 ○具体的な場面を思い出しながら考えるよう促す。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・自分の考えをワークシートに記入することができる。(③、配慮⑫、⑯)	黒板 ワークシート①
	グループ活動2 ・道案内文の作成	○ワークシート①の内容を参考にグループで協力して、より相手に伝わりやすい文章を考える。	○グループのメンバーで協力して相手に伝わりやすい文章を作成することを伝える。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・グループのメンバーで意見を出し合い文章を完成することができる。(①、②) ・読み手が読みやすいよう丁寧に字を書く。(④、配慮①、⑤、⑦)	ワークシート②
	グループ活動3	○作成した案内文を基に、もう一度目的地に行く。	○作成した案内文もとに、もう一度目的地に行くことを伝える。 ○分かりやすい点や改善点を考えながら活動することを促す。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・集団行動のルールを守ることができる。(④) ・チームでコミュニケーションをとりながら目的地に行くことができる。(②、配慮⑤)	

まとめ 10分	まとめ・ 振り返り	○ワークシート①の内容を中心に、どんな点に気をつけて文章を作成したかを発表する。 ○教師からの話を聞く。 ○次回の内容を知る ○日直の号令で挨拶をする。	○気をつけた点に関してグループごとに発表させる。 ○生徒の発表内容を黒板に板書する。 <協同学習の要素や配慮事項> ・自分達で考えた改善点を振り返ることができる。(⑤) ・メンバー全員が達成感を感じられるように褒め方を工夫する。(配慮④、⑬) ○生徒からの発表を基に相手に伝わりやすい文章を書くポイントを伝える。また読み手の想像力や疑問をもつ視点も重要であることを伝える。(①、③) ○次時の授業内容を伝える。	黒板
------------	--------------	---	--	----

(凡例)「前時の復習…」～授業の流れの骨子、 「○互いに教え合う…」～協同学習に関わる教師の活動

※ (①) … 互恵的な相互依存関係 、 (②) … 対面的なやり取り 、 (③) … 個人としての責任
 (④) … 協同学習スキル (⑤) … チームの振り返り

※ (配慮①～⑰) … 配慮事項については、マニュアルP8～10参照。

※ (配慮☆) … オリジナルの配慮事項。

授業参観者アンケート

授業者：亀田 倫代
協同学習（各要素）についての評価
① 互恵的な相互依存関係 ・文章どおりに行動する仲間を見ることで、書いた本人が自分が書いた文章が相手にどう伝わっているのかがよく分かる授業構成でした。
②対面的なやりとり ・話し合いをする場面が多くて、生徒が考えることが多い授業で良かった。
③個人としての責任
④協同学習スキル ・協同学習スキルの含まれた面白い導入でした。しかし、生徒がバラバラに行動するためS Tが必要な内容かと感じました。 ・協同学習の授業展開としては、要素の「④協同学習スキル」が、より具体的に明記されるとよかったです。 ・もう一度書き直すことで、読み手を意識した表現や文章校正により意識が向かう流れになっていて良かったです。 ・今回の題材をあえて学校祭と切り離すことで、生徒は今回の学習の成果を別の場面で活かす経験につながることを実感できると感じました。
⑤チームの振り返り ・他者評価を行い、生徒同士での振り返りができていて良かったと思います。しかし、内容(誰が誰を見て、誰を評価するなど)が複雑で他者評価が深まりにくかったのが残念でした。
協同学習全体を通して ・学習指導案に「協同学習の要素や配慮事項」が明記されていて、どのようなことに留意して授業を展開しようとしているのかが分かりやすく、良かったです

授業を通しての感想（良かったところ・改善点など）
・座学であったが、生徒が活動する場面が設定されていて生徒は飽きずに楽しんで授業に参加できたと思いました。 ・図の使用のことを授業後半で言っていたが、もっと序盤にあっても良かったと感じた。また、校内図の提示があっても良かったと感じました。 ・片方のグループで良い意見が出た際に、情報として全体に周知することも必要だと感じました。 ・書いてみた道案内の仲間の文章を実際に読みながら、校内を歩いてみるという取り組みがすごく面白く、ぜひ取り入れたい取り組みだと思いました。 ・もう一度書き直すことで、読み手を意識した表現や文章校正により意識が向かう流れになっていて良かった

たです。

- ・今回の題材をあえて学校祭と切り離すことで、生徒は今回の学習の成果を別の場面で生かす経験につながることを実感できると感じました。
- ・こういう授業をしたいと思います。
- ・生徒が主体的に取り組める雰囲気を作ることができて良かったと思います。
- ・授業を展開する際に、時間を腕時計で生徒にも確認させてから活動をスタートさせていて、生徒にも分かりやすくよかったです。
- ・授業で生徒に求めている「初めて学校に来た人が分かる文章にして」は、生徒の実態に合っていない部分がありました。正確にプログラミングのレベルの案内なのか、単に案内のレベルなのか、求めるレベルが生徒の感覚とずれていました。
- ・授業の組み立ては、生徒に意欲を喚起する内容で良いのですが、求めているレベルが生徒の実態にやや合わないと思いました。
- ・板書や指示には工夫や改善が必要です。学習活動の進め方が分かるように板書すべきです。
- ・目標は目標として板書すべきです。板書は生徒の思考の整理に効果的です。板書計画をあらかじめ立てておくと良かったです。

【全員授業研究 振り返りレポート】

- ① 協同学習の要素を取り入れた授業についての感想。
- ② 授業全般を通して、良かったところ、改善すべきところ。

単元・題材名	国語「学校祭の作文」 ～相手に伝わりやすい文章を作る～	生徒	産業科2年生徒5名
		場所	産業科2年教室
日時	平成28年11月30日（水）1校時	授業者	亀田 倫代
導入で行った動きのある活動では「④協同学習スキル」を意識し、集団行動の中で時間を守ることや、仲間と協力しながら目的を達成するために時間の設定を行った。活動自体は動きのある活動だったこともあり生徒の興味・関心を引き付けられた部分もあった。 しかし、本時の目標の提示を活動後に行ったことにより活動目的が曖昧になってしまった。その結果として導入で行った活動を基に記入する「③個人としての責任」を意識して行ったワークシート記入の内容に何を書いていいのかわからないというように生徒が戸惑ってしまった。また、誰に向けた案内文なのか、どこまで厳密なものを作成するのかという基準の設定が曖昧だったことや、正解の基準も曖昧だったため個人の感覚により達成度を測ることになってしまった。また、その結果として、生徒に対するアドバイスも根拠の欠いた内容になってしまった。 「①互恵的な相互依存関係」「②対面的なやりとり」を意識して行ったグループでの話し合いでは前述したように、明確な達成地点を提示できなかったことにより、グループでの話し合いがまとまりづらかった。また、様々な表現方法の例を出すことや校内図を提示するなどの視覚的な配慮が足りなかった。完全にグループごとの話し合いになってしまったが、それぞれのグループの意見をつなげることや、生徒の良い発言を共有することで「①互恵的な相互依存関係」「②対面的なやりとり」「④協同学習スキル」に関連づけた学習に発展させることができたと感じる。 終了時間を間違っていたという基本的なミスや、話し合いに対する配慮不足により、授業展開が指導案と異なる展開になった。それを最後まで修正するができなかった。結果として本時における「⑤チームの振り返り」を行うことができなかった。 生徒に求める活動内容や話し合いの内容が生徒の実態に合っていなかったことから、今後は活動の難易度の設定と実態について正確に把握するようにしたい。また、授業内で行う活動を厳選し振り返りや思考する時間をしっかりと確保することに気を付けたい。加えて、学習目標や到達点を分かりやすいものにし、複雑な活動や設定にしないようにしたい。そのためにも、板書やパワーポイントを活用し、授業で何を学ぶのか視覚的に分かりやすい状態で授業を進めることに気を付けたい。板書に関しては、毎回の授業の板書計画を作成することで見通しをもって授業を行うようにする。一つ一つの授業で何を学ぶのかを明確にして生徒との対話を大切にしながら授業を進めていけるようにしたい。			

国語

協同①ー「互恵的な相互依存関係」

「クラス（班）の全員が課題をクリアする。」「班で各自が自分の役割を果たし、協力して壁新聞を作る。」など、目標、活動、教材、役割分担、評価や成果（例えばでき上がった作品・製品の他、賞状、達成のご褒美シールなど）などについて互いに協力を必要とするような関係を具体的に書いてください。

- ・俳句を音読する際に、各自で割り当てられた箇所をリズムに合わせて、協力しながらスムーズに読み合わせる。
- ・敬語の一覧表を全員で確認し合い、表を完成させる。
- ・漢字の小テストの答えを一人一つ答えて全員で確認する。
- ・作成した個人の作文に発表して、グループで評価・評論を行い、良い点や改善点を交流する。
- ・コミュニケーションのタイプを3つに分類し、それぞれのグループから出た意見や違いを発表し合い、全員でその違いを確認する。
- ・自分の名前ではなくクラスメイトの名前の漢字の持つ意味を調べ合い、全体に発表する。
- ・グループでそれぞれの意見を出し合い、英語表現を協力して考え相手に伝える。（ALTの授業）
- ・チームで協力して単語を連想し黒板に書き出し、出し合った漢字の意味を確認する。
- ・グループで同音異義語の意味や例文を考えて問題を出し合う。

協同②ー「対面的なやりとり」

仲間同士、援助したり、教え合ったり、議論したり、励ましたり、誉めたりし合うことで生徒がお互いの（学習の）成功を促進し合う機会を授業場面で設定してください。

- ・漢字のテストの答え合わせをペアで採点し合う。
- ・漢字の答え合わせの際に生徒が黒板に答えを書いて、間違っているところや読みにくい字などを指摘し合う。
- ・自分の書いた作文を学級内で発表し、聞き手は感想を伝える。
- ・出された問題についてペアで話し合いをして正解を共に考える学習を行う。

協同③ー「個人としての責任」

生徒一人一人には個人の責任があり、自分のやるべき役割を果たして個人目標に到達できるように、一人一人の活動や役割を設定して書いてください。

- ・ペアのプリントを丸付けする際に相手に分かるように丁寧な字でプリントに答えを記入する。
- ・答えが全員に分かるように、丁寧に大きな字で黒板に記入する。
- ・作文や意見発表など人の話を聞いてから学習をするような場面で、発表する側と聞く側に分かれるような学習を行う。（オリエンテーション的な学習も含む）
- ・聞き手や読み手分かりやすい文章にするために、句読点や文章のつながりを考える。
- ・仲間の作文発表を聞くだけではなく、一言ずつ感想を述べる時間を設定する。

協同④ー「協同学習スキル」（考えるスキル・集団活動スキル・コミュニケーションスキル、教科固有の協同学習に関わるスキル）

より質の高い協力と学習ができるように、授業で指導する社会的スキルと教科固有のスキルを書いてください。

- ・ 作文を書くために、辞書を使用して漢字の読み書きを調べる。
- ・ 作文や意見発表など人の話を聞いてから学習をするような場面で、発表する側は、相手に聞いてもらいやすい表現や声の大きさと発表する。聞く側はその発表を聞いて評価したり、自分の発表と比較して改善点をまとめたりして次の発表に生かす。
- ・ 漢字の成り立ちを調べ学習の中で、グループで相談する時に、主張だけでなく仲間の意見にも耳を傾けながら必ず全員が意見を述べる機会を設定して話し合いをさせる。

協同⑤ー「チームの振り返り」

どのように援助し合ったり、協力し合ったりしたらチームがうまくいったのかについて、書いてください。

- ・ 敬語の一覧表を作って掲示し、自分達で敬語の使い方を日常的に振り返る環境を作る。
- ・ 取り組んだ学習を振り返って、反省したことを今後に生かすような学習を行う。

成果と課題

- ①各学年、現場実習などの行事を抱えていて国語の授業自体がほとんどできていない中、7月と9月のグループ研究レポートを提出する日程だったため、主だって特別な取り組みはできていません。また、学校祭時期とかぶっていて、ほとんど授業がなかったために主だった学習はできていない。
- ②7月のレポート提出の際に見解を出しましたが、協同学習という一つの学習形態が全ての学習（教科・グループ等）に合っているわけではないと改めて感じている。

解決策（解決策の方向性）

- ①少ない授業の中で取り組んだものの内容を3学年分を載せました。報告が全4回計画されているようだが、2～3回で十分ではないか。
- ②協同学習の要素を取り入れられるところは取り入れ、課題や能力差、グループ構成等で難しい場合については、個に応じた指導にするべきだと感じます。ペアやグループにまとめて学習をするのでできていない生徒の印象が薄れ、できているように錯覚しがちになると感じます。特に国語や数学などそれぞれの抱えている課題に大きな差が生じているような教科では、その課題にあった個々のニーズに対応した課題学習を積み上げ、その学習のまとめのような場面で協同学習を扱ってはどうか。
- ③単元のどこで協同学習を取り入れ、どの部分を習熟度で学習すべきかを数年間積み上げて年間指導計画を作成してはどうか。